

学道一如

発行
小樽双葉高校
生徒会通信
2025年5月16日
第8号

小樽空襲34名の犠牲者

市民の調査で40年目に明らかに

終戦の1ヶ月前に小樽で空襲があり、34名の方が犠牲になったことを「存知だろうか。これを詳しく調べ冊子にして発行された嶋谷節夫さん（小樽市塩谷）を4月29日に訪問し、お話を伺った。



嶋谷節夫さん（90歳）
岡山県出身、元高校教師。小樽市塩谷在住。
「いつまでも戦争を忘れない小樽教師の会」の代表。一九八八年、「小樽の戦争証言・資料集（4）小樽空襲の記録」を発行した。

北海道空襲 1945年7月14、15日、道南部沖に14隻の空母などからなる米軍第38任務部隊が展開。空母から飛び立った艦載機が、道内各地で機銃掃射や爆弾投下による攻撃をしかけた。海上での被害も大きく、函館沖や津軽海峡を航行していた青函連絡船などが沈められた。北海道空襲の犠牲者は少なくとも2916人とされる。本土空襲の主体だったB29爆撃機は、航続距離の関係から北海道に飛来せず、東京や大阪などのような焼夷弾による被害はなかった。



釧路市の空襲（市教育委員会）

戦後80年 未来への伝言



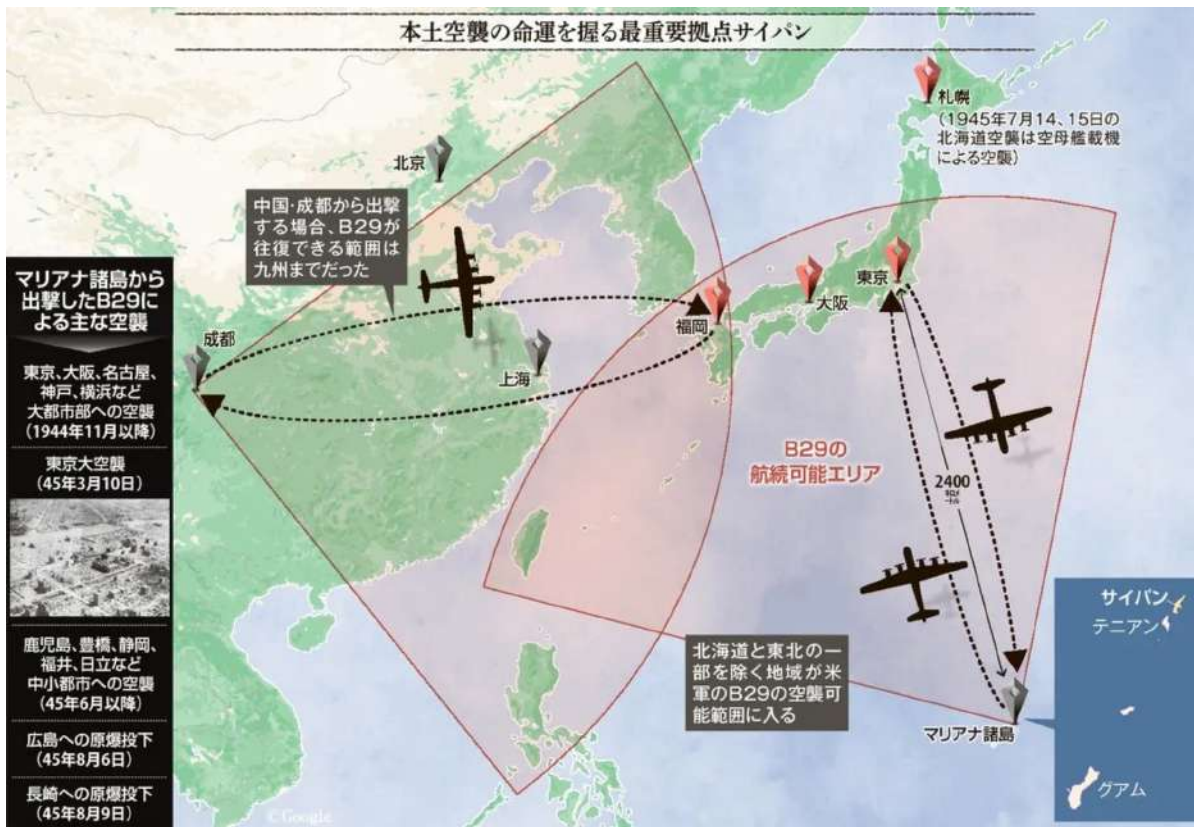
双葉歴史探偵事務所
□4□

戦後80年の節目の年に小樽の戦争にまつわることを調べ、過去から学ぼうと特集を組みました。まず、小樽空襲について、嶋谷節夫さんに聞きました。

嶋谷さんは岡山県出身で広島大学の教育学部を出て、北海道の高校で国語科教員として教鞭を取られた。高校時代に読んだ小林多喜二の作品に感銘して、北海道にきたのだという。俱知

安農業高校を皮切りに、小樽桜陽高校には25年間勤務された。本州はB29により焼け野原に空襲について尋ねると、「B29戦闘機は日本の空襲のために作られたもの。日本国内はこれ

本土空襲の命運を握る最重要拠点サイパン



北海道空襲はB29ではなく、空母艦載機によるものだった。

マリアナ諸島から出撃したB29による主な空襲

東京、大阪、名古屋、神戸、横浜など大都市部への空襲（1944年11月以降）

東京大空襲（45年3月10日）



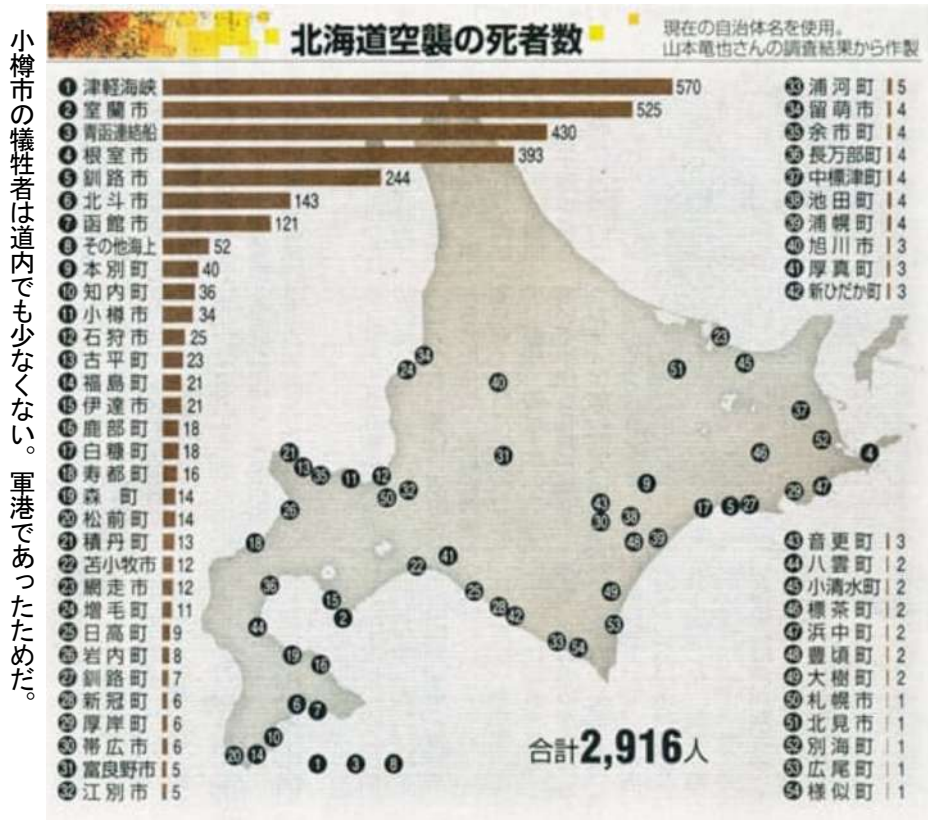
鹿児島、豊橋、静岡、福井、日立など中小都市への空襲（45年6月以降）

広島への原爆投下（45年8月6日）

長崎への原爆投下（45年8月9日）

北海道は空母艦載機による

北海道の空襲は終戦の一ヶ月前の7月14日、15日に起こっている。函館は連絡船を全滅させるのが目的だった。事前に偵察されていたことがわかっていて、船を待避させればよかったのに、と思うね。」「室蘭の製鉄工場、釧路、根室の被害も大きかった。襟裳岬沖に米国の航空母艦が編成され、機動部隊が艦載機ミズリから飛び立って空襲した。小樽空襲は1（4波）（5波）あった。犠牲者を発表したら、連絡があり、張碓の鉄道用地の銃撃での犠牲者や津軽出身の船大工さんが亡くなっていることがわかった。」「亡くなった人を火葬するのに、軍人、軍属は無料だけれど、一般人は6円かかった。」「北海道の市民は空襲の恐ろしさがよくわからなかったと思う。窓から顔を出すなどして犠牲になった人もいた。本州に比べると空襲の被害者は少ない。



小樽市の犠牲者は道内でも少なくない。軍港であったためだ。

B29はサイパンの飛行場から飛んできたが、燃料の関係で北海道にはあまり飛んでこなかったからだ。だが、小樽港は防衛拠点として狙われていたので、暁部隊の高射機関銃があたりここにあり、応戦した記録もある。」

市役所で犠牲者調べた

「空襲の犠牲者を調べるために、市役所で死亡届を調べた。その当時（一九八〇年代）は執葬認可証（火葬許可証）に死亡状況が書いてあったことで状況

がわかった。今は個人情報なので公開していない。」

広島市に行き生存者に聞いた

「なぜ海防艦55号に被害が集中したのか。調査のために生き残った人を広島市に訪ねた。空襲が終わった後になぜ出航したのか。―それは功名心から。秘密文書が見つかるのではないかと考えたからだ。ところが、そこでグラマン機の機銃掃射に遭ったのだった。

私たちが調べた記録に載って

市民の調査で被害が明らかに 小樽空襲

（北海道空襲データベース、2011年、山本竜也氏）

小樽市への空襲は15日に行われた。海上にも陸上にも攻撃が加えられた。海上では、第55号海防艦（810排水トン）・第47号海防艦（810排水トン）・海防艦「笠戸」（870排水トン）、汽船昭華丸（東和汽船、1931総トン）・信濃丸（日魯漁業、6254総トン）・山東丸（坂井汽船、1890総トン）が空襲を受け、海軍兵や船員・労務者が亡くなった。陸上では、銭函駅や張碓鉄道官舎・手宮台陣地などに空襲があり、民間人や陸軍兵が犠牲となっている。

『小樽市史』の空襲関連の記述は簡単に済まされ、犠牲者については何も書かれていない。しかし、北海道新聞記者や「いつまでも戦争を忘れない小樽教師の会」が調査をすすめ、小樽市役所に保存されていた執葬認可証などから犠牲者数が33人であることを明らかにし、そのうち32人の氏名を判明させている。このように、小樽空襲については市民が中心となって細かい調査がなされてきたが、1名の漏れがあったことが今回判明した。

『戦時船舶史』によると、小樽港で汽船昭華丸が沈没し、5人の船員が犠牲となっている。そこで、『戦没船員名簿』をあたったところ、たしかに5人の名前を発見した。このうち4名については、「いつまでも戦争を忘れない小樽教師の会」作成の名簿にも掲載されていた。しかし、1人だけ洩れていた。なんらかの理由により、市役所に執葬認可証が残されていなかったのだろう。小樽空襲の犠牲者は1人増えて34人となる。

【小樽空襲の犠牲者】

氏名判明・・・民間11、船員7、軍人15

氏名不明・・・民間1、船員0、軍人0

	氏名	性	年齢	職業	備考
1	上田利一	男	19	軍人	第55号海防艦
2	三ツ森長穂	男	19	軍人	第55号海防艦
3	渡辺輝夫	男	19	軍人	第55号海防艦
4	平井末夫	男	17	軍人	第55号海防艦
5	久田藤太郎	男	36	軍人	第55号海防艦
6	石田秋雄	男	38	軍人	第55号海防艦
7	山田道長	男	19	軍人	第55号海防艦
8	大村一三	男	20	軍人	第55号海防艦
9	南条平八郎	男	17	軍人	第55号海防艦
10	前平林次郎	男	38	軍人	() 海防艦
11	男澤 易	男	21	軍人	第47海防艦
12	後川 茂	男	20	軍人	第47海防艦
13	大西省三	男	17	軍人	海防艦 笠戸
14	長岐 博	男	22	軍人	手宮台陣地
15	山田正徳	男	16	陸軍軍属	小樽港で戦死
16	堀野 亘	男	16	陸軍軍属	小樽港で戦死
17	中川光春	男	38	軍属	小樽港で戦死
18	戸張英二	男	18	陸軍軍属	小樽港で戦死
19	武藤 壽	男	27	軍人	5日後、陸軍病院で死亡
20	下出善一	男	18	労務員	汽船信濃丸（小樽港）
21	大宮倉吉	男	53	労務員	汽船信濃丸（小樽港）
22	工藤福蔵	男	34	労務員	汽船信濃丸（小樽港）
23	館山欣吾	男	33	労務員	汽船信濃丸（小樽港）
24	田中藤吉	男	49	船長	汽船山東丸（小樽港）
25	佐々木茂蔵	男	31	司厨長	汽船山東丸（小樽港）
26	飯田清一	男	18	鉄道機工	銭函駅構内
27	佐藤ヨシ	女	20		朝里町（自宅玄関）
28	鈴木吉太郎	男	33	作業員	
29	吉倉哲彦	男	17	鉄道員	機関助手として勤務中
30	中野熊三	男	39	漁夫	
31	八幡敏雄	男	16	軍属	銭函駅で被弾、8月8日没
32	大村テル	女	45	主婦	
33	横	男		船大工	青森県出身
34		男		船員	汽船昭華丸

いない犠牲者がいることも、後日わかった。死体が見つからなかったため、火葬記録がなかったからだろう。

※左の表は嶋谷さんの作成した「小樽空襲の記録その一」から「小樽空襲の犠牲者の一覧」である。

若い軍人・軍属が多いが、船員や民間人も多数いることがわかる。関係者の証言を次に一部紹介する。

なぜ北海道の空爆犠牲者は3000人に増えたのか

それは、艦砲射撃での死者、青函連絡船沈没による死者、輸送船、軍艦船の死者などは当時の混乱状況と軍事機密もあって、正確な数字をつかむことが難しかったから。軍隊の被害は秘密とされて隠されたものもある。強制連行されてきていた中国や朝鮮の人たちの犠牲も埋もれているかもしれない。

北海道ではこれまで空襲犠牲者数が正式に役所から発表されたことはない。各地の研究者や研究会が粘り強い調査を続け、空襲記録を発刊してきた。特に菊地慶一氏は地道な調査により、『語り継ぐ北海道空襲』（2007年、北海道新聞社）で犠牲者数は1958名と発表した。その後、山本竜也氏がインターネットを駆使して本州や国会図書館などに足を運び、資料の分析を行い、『北海道空襲犠牲者名簿』を作成し、犠牲者数2916名（内、氏名判明者2638名）としている。数百人単位での犠牲者の増加分は主に海上の船舶で犠牲になった軍属や軍人たちだった。陸上での被害では室蘭艦砲射撃での製鉄所の犠牲者名簿は未だに公開されていない。



日本軍の反撃と犠牲示す 高射砲台跡 (手宮公園陸上競技場内)

十勝管内音更町にあった高射砲第24連隊（通称北部第91部隊）第2大隊第4中隊が、昭和18年音更町から小樽に駐屯し、手宮公園内に設置された高射砲4門で防空を担当した。そのうち、1門の台座跡（上写真）が残っている。

7月15日、「敵機が手宮公園にある無線塔や高射砲陣地を、低空から舐めるように機銃掃射していた。」との証言もあり、

麻酔なしに手術、治療

一ヶ月の重傷 川原チヨノさん（当時34歳）

塩谷でこの朝、チヨノさんは子どもたちを防空壕に入れ、長女と二人で家にいた。ちょうど12時に家の上を4機の飛行機が通過した。ドーンと音がして左の腰のあたりがつぶされるように感じて、うつぶせになった。モンペの中の左足を冷たく血が流れていく。そこを押さえて防空壕まで裸足で行くと、土の上に座り込んだ。『そしたらね、みんなが「かあさんどうしたの?」ってね。私はもう血が出て真っ青になってね。みんなね、死んだと思ったそうですよ。冷たい血が流れてたまるんですもの』（嶋谷さんの聞き取りより）

チヨノさんはその後、町内の人により石橋病院に担ぎ込まれた。途中、兵隊が血止めしてくれた。医師が腰骨に刺さった爆弾の破片（1.5×4センチほど）を麻酔をかけずに摘出し、縫合。爆弾の入った穴は塞がす、毎日一ヶ月消毒するために通院したという。

米軍艦載機4機失う 4名が犠牲 2名が捕虜に

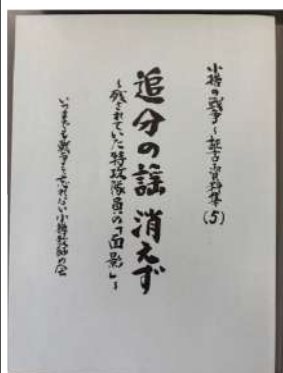
米軍の資料（松本尚志氏の調査）から、以下の4機が小樽空襲で失われたと考えられる。

①7月15日午後1時40分頃 小樽湾 空母ベニントンから飛来したTB M-3が不時着。港湾施設等を攻撃中、自機が投下した爆弾の破片で損傷し、海岸から約10マイル沖の海上に不時着した。搭乗員3名は、僚機の投下した救援物資を受け取り、救命ボートで留萌沖の海上を漂流中、20日に漁船に見えられ、Joseph C. DORCIE二等飛行通信兵曹が漁民と争って殺害された。彼の遺体は8月15日に増毛海岸に漂着した。

Ernest J. DAVIS Jr. 三等射撃兵曹、Clifford S. MEHELICH少尉は、海岸にたどり着き、山中に逃げ込んだ後に捕虜となった。21日に札幌月寒の北部軍管区司令部を経て、苗穂の札幌刑務所に移送。戦後の9月11日、千歳で米第8軍に引き渡され、米国へ帰還。

②7月15日昼頃 小樽湾 空母ヨークタウンから飛来したF6F（機体番号8090）が墜落。

小樽商大・特攻隊員の記録



嶋谷先生は小樽商大出身の特攻隊員の記録も冊子にしている。昭和19年秋海戦で亡くなった牧野顕吉さんに関する記録だ。かつて特攻隊で亡くなった人を偲び、追悼文集を出す習わしがあったそうだが、牧野さんのときはあいにく文章が集まったのが終戦日の8月15日で、この日を境に特攻隊員は国の英雄から一転して戦犯になるかもしれないという恐れがあったそうだ。そのため文集は家に届けられ、その後、小樽商大へ預けられて、嶋谷先生たちが手にすることになったという。

嶋谷先生のメッセージ 「日本国憲法をもっと大事に」

日本国憲法をちゃんと読みなさい。9条は戦争で犠牲になった人たちの血の結集だ。憲法は全部で103条あり、「憲法を読む会」を作り、26回読んできた。この憲法が作られた背景に悲惨な戦争体験と犠牲者がいることを忘れてはいけない。だが、憲法をないがしろにする政策がどんどん進んでいる。日本はこの憲法がある限り、軍備に金を使わなくていい。戦争はもろくないし、軍備は必要はない。

取材を終えて 多くの犠牲により憲法誕生

嶋谷先生の語り方、エピソードから90歳とは思えない熱意と力強さを感じました。中でも憲法の話が印象的で、憲法ができるまでにどれだけの犠牲が払われ、思いがこめられているのかを感じることができました。18歳で選挙権をもつ高校生が政治について考えるのに参考になる話でした。（大塚翔太）

●小樽空襲について詳しく知れたのは良い経験になりました。（落合優翔）

●ウクライナ、パレスチナ、ガザ地区、戦火の止まない現代に過去の歴史から学びたいです。

この憲法があるのだから、世界から賞賛を受けているし、平和な日本に観光に来る人も多いことを再認識してほしい。実際、憲法はよくできています。たとえば、憲法24条は日本の女性の権利向上を意図し、夫婦には同等の権利があること、相互の協力に触れている。